

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立小中一貫校芙蓉校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。本調査は、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童・生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童・中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|---|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

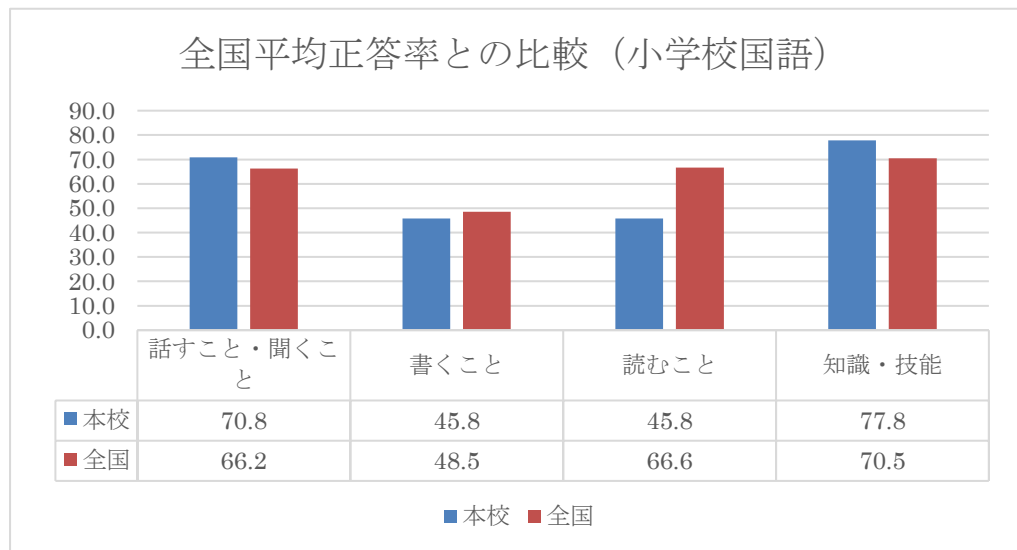
児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察【小学6年生】

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っている。「書くこと」はやや下回り、特に「読むこと」については全国平均正答率を大きく下回っている。

(2) 成果と課題

今回の調査で、知識・技能が 7.3 ポイント上回った。日常的に取り組んでいる、漢字や言葉の学習の成果が表れていると考えられる。課題は、「読むこと」の領域である。物語を読んで「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」問題や「人物像や物語の全体像を想像する」記述式の問題では、無回答を含め全国平均を大きく下回っており、苦手になっている児童が多くいる。登場人物の性格や気持ちの変化を文章表現から想像する力を付ける必要がある。「話すこと・聞くこと」の力を生かし、主体的・対話的に学びを深める授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

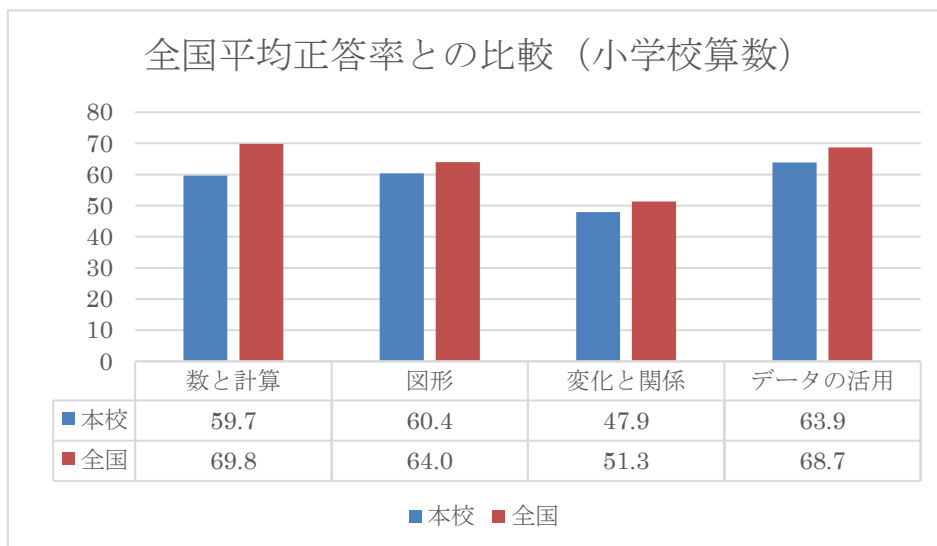
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 登場人物の気持ちや場面の様子を文章表現から想像できるような話し合い活動を増やします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 一緒に読書をしたり、お子さんと会話を楽しんだりして、お互いの考えを交流しましょう。考えたことを自学ノートなどに書き表すなどができるよう、話題にしてみましょう。

2 算数(数学)



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果だった。全ての領域で全国平均をやや下回っている。また、無解答率を見ると、「変化と関係」の問題で全国平均より高くなっている。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 変化と関係」の領域の、百分率で表された割合を分数で表す問題の正答率が全国平均正答率を3.9ポイント上回っていた。また、「A 数と計算」の領域の、2つの数の最小公倍数を求める問題の正答率も全国平均正答率を上回っていた。今回、プログラミングに関する問題が出題されていた。示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題は、全国平均正答率を上回っていたが、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き換える問題は課題が見られた。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図っていく。「C 変化と関係」の領域の、百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題の正答率は大きく下回り、無回答も見られた。また、「記述式」の問題に課題が見られるため、日々の授業で、自分の考えを図・式・言葉を用いて記述させたり説明させたりすることを継続していくことが大切であると考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

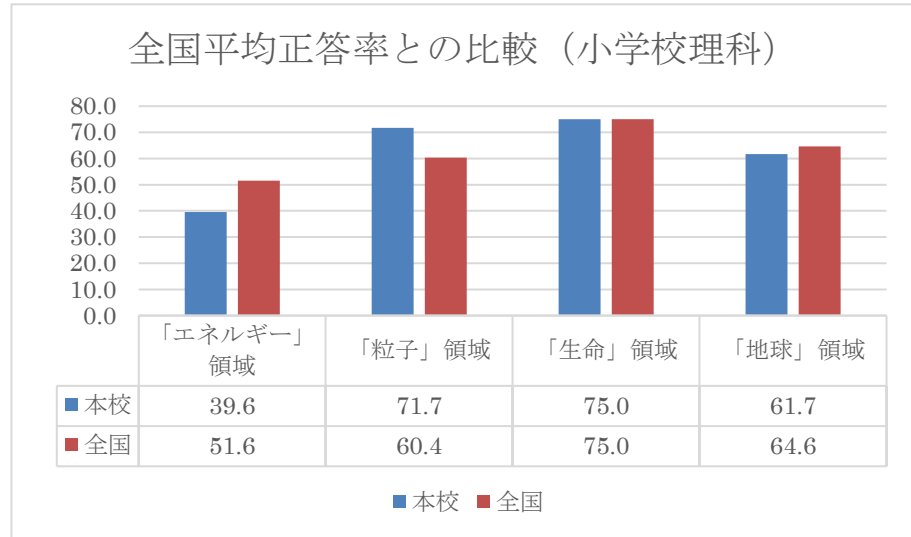
【学校では】

- 授業の中で、図や式、言葉を関連付けて自分の考えを書く活動を設定し、論理的に書くことができるよう、記述の仕方を指導します。
- 自分の考えをペアやグループ、全体で、分かりやすく説明し合う、話し合う活動を位置付け、論理的に考える力と表現力を育みます。
- 朝の時間の「チャレンジタイム」に継続して取り組み、記述力を高める指導を行います。活用力へつながる応用問題にも計画的に取り組ませます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。お子さんが今学習している内容や理解の程度、問題を解くのにかかる時間などに関心を持つことは、子どもたちの「やる気」につながります。
- 学習したことが自分の生活の中につながったとき、算数への興味・関心がさらに高まります。生活場面で算数を使う便利さや面白さを、お子さんと一緒に意識して探してみてください。

3 理科



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果だった。「粒子」の領域で全国平均を上回っている。「エネルギー」の領域で全国平均を下回っている。

また、無解答率が高く、課題が見られた。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」の領域の、水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、まとめる問題の正答率は、全国平均を12.2ポイント上回った。また実験器具の名前を問う問題が全国平均を大きく上回ったものの、「エネルギー」の領域の、光の性質の基礎的な問題に課題が見られたため、過去に学んだ基礎的・基本的な知識・技能を復習し、定着を図る必要がある。

自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、問題形式の「記述式」の問題でも課題が見られた。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えている。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、お子さんの成長や努力を見つけ、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 普段の生活でみられる自然現象について、例えば「コップに冷たい水を入れるとまわりに水滴がつくのはどうして？」といった疑問をお子さんに話しかけてみてください。習ったことと日常生活の現象を結びつけると理科への興味・関心が高まり、理解が深まることもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	83.3%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	25.0%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50.0%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	41.7%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	8.3%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	66.7%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	83.3%	83.9%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要であるので、家庭と学校で協力して、習慣化を目指したい。

挑戦心や規範意識の項目についても、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ている。自分のよいところを生かし、積極的に行動する場面を学習や生活の中に仕組みたい。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	8.3%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	16.7%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	66.7%	25.8%
「30分より少ない」	16.7%	10.5%
「全くしない」	0%	4.2%

家庭学習については、全国平均より勉強時間が短く、1時間未満の児童が8割近くおり、家庭学習が短い児童もいる。個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきたい。また、自主学習のよさを伝えることで、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

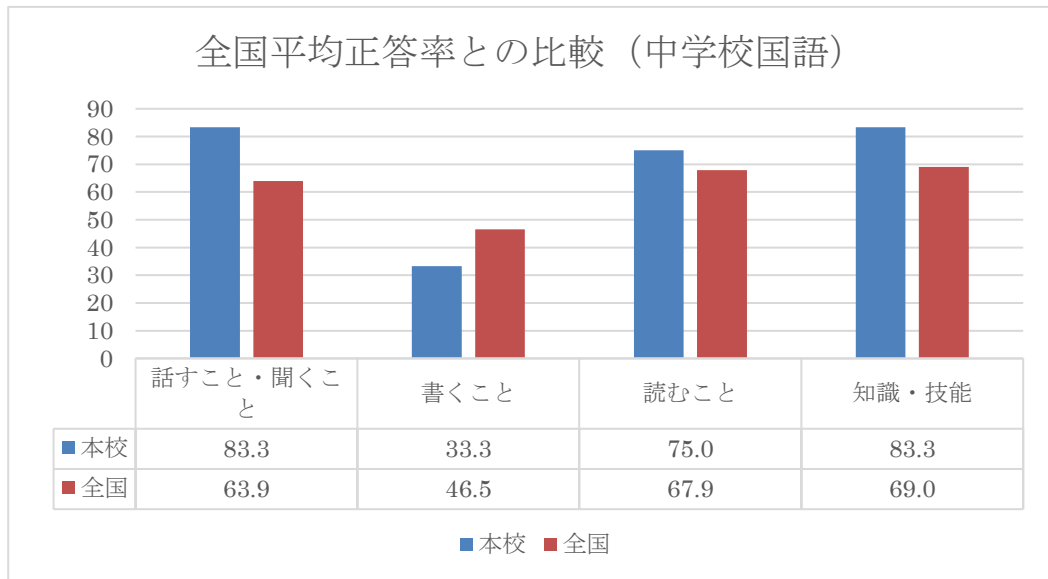
- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 年間3回、全学年で実施する「Fuyo 夢プロジェクト」週間で、自分の生活、学習習慣を見直し、向上させることにつながるようにしていきます。取り組んだ結果を学級通信等で家庭にお知らせし、家庭との連携を図りながら効果が上がるようにします。

【ご家庭では】

- 「Fuyo 夢プロジェクト」の項目を家庭でも意識して、普段からお子さんに言葉を掛けてあげてください。また、お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が高まり、望ましい習慣化が図られていきます。
- 芙蓉校版「家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間の目安や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

■ 調査結果及び考察【中学3年生】

1 国語



(1) 結果

全体では、全国平均を12ポイント上回る結果でした。「話すこと・聞くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を大きく上回っています。しかし、「書くこと」は全国平均より下回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均と同じ程度となっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が14.3ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段からの漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。また、「話すこと・聞くこと」は19.4ポイント上回りました。話し合う活動に力を入れ、学習活動に取り入れてきた成果であると考えられます。課題は、「書くこと」の根拠を明確にして意見文を書くことです。しかし、問題形式の「記述式」の正答率72.2%は、全国平均正答率57.4%を14.8ポイント上回っています。「思考力・判断力・表現力」を重視した問題がより増えつつありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

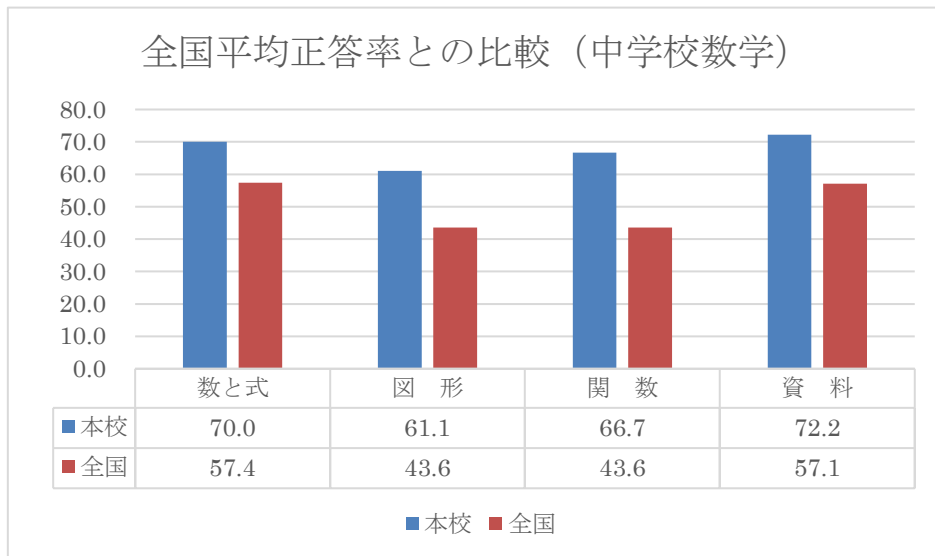
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習にも力を入れ、辞書を活用させ、語彙力をつけます。
- 書写では、年賀状やお礼状など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数学



(1) 結果

平均正答率は全国平均を上回っています。全ての領域で全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、どの領域でも全国平均を上回り、無解答率も低かったです。特に、「D データの活用」の内容で、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているか問われた問題では、非常に高い正答率でした。一方で、証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を問われた問題では、全国平均正答率を 7.5 ポイント下回り、課題が見られました。証明の内容では、実際に作図などをさせ、具体的な操作から考えることができるよう、指導の充実を図ります。

今後、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

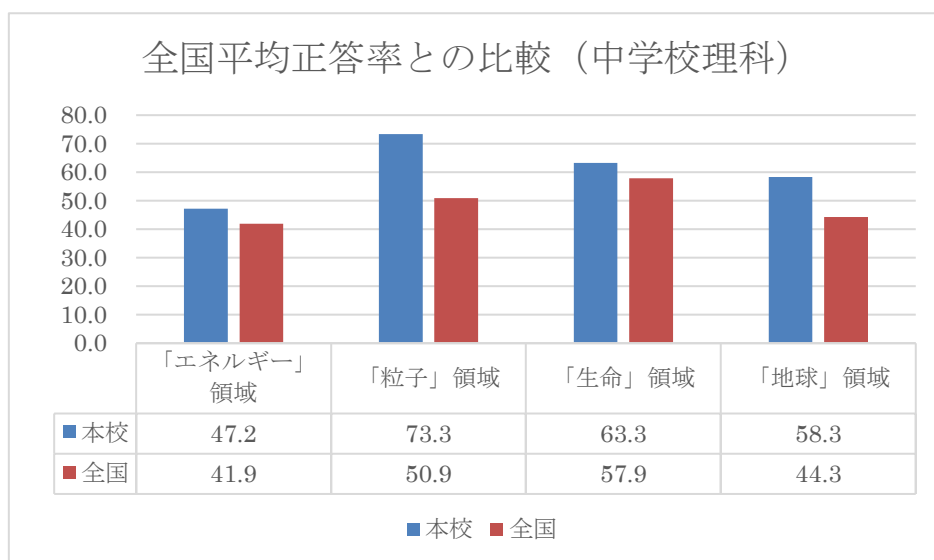
【学校では】

- 具体的な操作や作図などを行い、数学的な活動を通して、イメージをもたせるように努めます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 知識・技能を習得する場面では、基礎・基本の定着を図るため、演習問題に取り組みます。また、タブレット PC や復習プリントなどを活用し、個々に応じて復習に取り組みます。

【ご家庭では】

- 授業等で分からなかったところは復習するように話をしています。疑問点をそのままにせず、周囲に質問し、理解できるまで、粘り強く取り組むことが大切になります。お子様の学習の様子を見守り、適宜アドバイスや励ましての言葉をかけください。
- 小テストや単元テスト、実力テスト、定期テストなど様々なテストを実施しています。基礎・基本の定着度をみるもの、活用力をみるものなど、目的に応じて様々です。ご家庭でも、授業の内容やテストでの得点状況などについて、話をされてみてください。

3 理科



(1) 結果

すべての領域で全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、すべての領域で全国平均を上回っていましたが、「生命」の領域の脊椎動物の骨格のつくりを考える問題や、「エネルギー」の領域のばねののびの問題など理解不足の内容がみられました。1年生の内容を復習し基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、生徒の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになるきっかけとして、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	83.3%	79.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	83.3%	37.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	100%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	16.7%	36.0%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	33.3%	21.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100%	73.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100%	82.6%

朝食・起床・就寝については全国平均より高い水準です。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできています。中学生の遅刻は見られません。これは家庭の協力なしにはできないことであり、保護者の皆様に感謝します。挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒がほとんどでした。その反面自己肯定感が低いようです。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	16.7%	15.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	16.7%	25.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	83.3%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	0%	17.0%
「30分より少ない」	0%	8.5%
「全くしない」	0%	4.9%

家庭学習については全国平均よりも取り組み時間がやや少ないようです。1時間未満の生徒は見られません。学校では、家庭学習の進め方や Fuyo 夢プロジェクト週間を活用して家庭学習の意味を生徒に伝えて、家庭学習が習慣化するように指導をしています。また、新型コロナウイルス感染症拡大による心の問題も、大切な課題であるととらえています。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習が定着するように毎日自主学習ノート（自学）を1ページ以上行うように指導しています。
- 放課後学習会を利用し、苦手教科の克服や卒業後の進路への意識付け等、学習への課題意識をもたせるようにしています。

【ご家庭では】

- お子さんと学校での出来事や将来について話す時間を増やしてください。
- ゲーム、テレビ、パソコンやインターネットなどの使い方について約束事を決めるなど、学習に集中できる環境を整えてください。
- 「芙蓉校9年間の家庭学習のすすめ」や「家庭学習の進め方」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で計画的に学習できるように励ましてください。